

THE TOKUGAWA ART MUSEUM  
徳川美術館  
THE LIBRARY OF MUSEUM  
蓬左文庫



尾張  
姫君  
ものがたり



2021  
09/18 -  
11/07

## 展覧会概要

御三家筆頭の格式を誇る尾張徳川家では、徳川將軍家をはじめ徳川一門、公家や諸大名から歴代藩主の正室を迎えました。正室は尾張徳川家と実家との橋渡し役となり、独自の政治的役割を果たすとともに、文化や儀礼の面でも婚家を支えました。また、家の存続に不可欠な世継ぎを確保するため、正室以外の女性が世継ぎを生む例も少なくありません。なかには生母として正室に次ぐ地位や権力を得る者も登場しました。

本展では、尾張徳川家を陰で支えた正室や側室・息女ゆかりの品々を展示し、大名家に生きた女性たちの実像に迫ります。

## 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 秋季特別展 尾張姫君ものがたり
- ◆会場 徳川美術館 本館展示室・名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2021年9月18日(土)～11月7日(日) ※会期中展示替あり
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(但し、9月20日(月・祝)は開館、翌21日(火)は休館)
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円  
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円  
※毎週土曜日は高校生以下入館無料
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 読売新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

## プレス内覧会

2021年9月17日(金) 午後1時30分～2時30分

会場：徳川美術館講堂

内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

右：相応院画像 徳川義直 画賛 相応寺蔵

初代義直が、生母お亀（相応院）の晩年の姿を自ら描き、上部に賛をしたためた肖像画である。息子が描いたお亀の姿はふくよかで気丈夫らしい人物像を伝える。(9/18~10/17 公開)



下：相応院消息 原田右衛門・寺西藤左衛門宛 名古屋市博物館蔵

慶長15年、名古屋城築城のため堀川を開削した際、替地を天王坊に与えるよう、お亀が尾張の国奉行であった2名に命じた書状である。当時11歳であった義直に代わって家康の指示をお亀が取り次ぐ形で発給されていることからお亀の政治的な役割が垣間見られる。



お亀・春姫・おさい・お尉・京姫  
第一章 創 初代義直ゆかりの女性たち

尾張家は、徳川家康と側室お亀との間に生まれた九男義直（一六〇〇〜一五〇）に始まる。義直がわずか八歳で尾張国主になって以来、生母のお亀はその側近を早くから自身の血縁者で固め、義直を支える政治体制を作ることに尽力した。お亀の存在なくしては、尾張家の発展はなかったかもしれない。義直と正室春姫の結婚は、大坂冬の陣と夏の陣の戦間期に行われ、未だ残る戦国の遺風の中で政略結婚であった。二人の間に子はなかったが、側室のおさいとお尉との間に、義直は光友（のちの尾張家二代）と京姫の二人の子を得た。

三代将軍家光は自らの血脈を守り、幕府権力の強化を図るため、わずか三歳の千代姫を光友（一六二五〜一七〇〇）に嫁がせた。婚礼に際し千代姫が持参した「初音の調度」は、將軍家の姫君としての威光を具現する豪華な婚礼調度であった。その後も四代將軍家綱・五代將軍綱吉の姉として、六十年にわたり、將軍家の橋渡し役となり、尾張家に多くの恩恵をもたらした。千代姫が産んだ長男綱誠は尾張家三代、二男義行は高須松平家初代となった。光友の側室は、江戸在住の千代姫に憚り、すべて国元の尾張に置かれた。このうち三男義昌の生母勘解由小路が長きにわたり正室に次ぐ地位にあった。



国宝 初音蒔絵鏡台 千代姫所用

千代姫は、長らく子宝に恵まれなかった3代將軍家光の待望の第1子であった。当時は將軍家に男子がなく世継ぎの確保のため、家光は寛永16年にわずか3歳の千代姫を尾張家初代義直の長男光義（のちの光友）に嫁がせた。このとき持参したのが、「初音の調度」の名で知られる絢爛豪華な婚礼調度である。將軍家の威信を示すかのように、金銀や赤珊瑚をふんだんに用い、あらゆる蒔絵技術を駆使した調度は、日本の漆工芸品の最高峰を誇る名品としても高く評価されている。

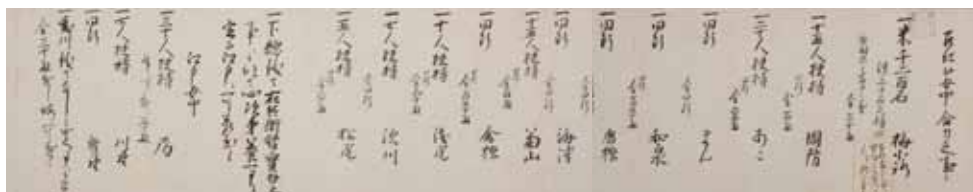
第二章 華 二代光友ゆかりの女性たち  
千代姫・勘解由小路

箏 銘小町 春姫所用  
箏は現在一般に「琴」と呼ばれる楽器で、古くから和歌や手習いとともに女性の教養として重要視された。春姫はよく箏をたしなんだという。



新姫・梅小路  
第三章 栄 三代綱誠ゆかりの女性たち

綱誠（一六五二〜九九）の正室は、公家の広幡忠幸と初代義直の娘京姫との間に生まれた新君で、二人の間に子はなかった。綱誠の側室は名前がわかる者だけで十三人を数え、このうち最も多くの子どもを産んだ梅小路がその筆頭に位置付けられた。また、綱誠の子どもは養子を含め四十人と歴代当主で最多を数えた。わずか六年の在位ながら、二代光友に続き栄華の時代を極めた。



女中の立場と生活費—綱誠の遺言状より

徳川綱誠遺言状（召使候女中合力之事）三代綱誠筆 二巻の内

三代綱誠の残した遺言状11通のうち、女中へ扶持として与える米と遺産金の分配を指示した一通である。女中は奥向きに勤務する使用人をいい、名前が挙がる十七人は綱誠の身近に仕えた女性であったとみられる。このうち筆頭の梅小路は米千二百石と金三千両で群を抜いて多い。梅小路は綱誠との間に四男三女の子どもをもうけており、正室の新君亡き後、実質的な妻の立場にあった。そしてもう一人、特別な扱いを受けたのが世継ぎである「右兵衛督」（のち四代吉通）の生母下総であった。具体的な扶持や金額は示されず「心次第」に養うようにとある。このなかでは、阿古・和泉・唐橋・菊山・倉橋も綱誠の子を産んでいる。本展では当主の子を産んだ女性をすべて「側室」としているが、江戸時代の側室制度では、女中の身分で当主の子を産んだとしても、すぐさま「側室」に昇格するわけではなく、女中の身分のままであることが基本であった。梅小路のように公的に側室として認められた場合か、下総のように産んだ子が世継ぎとなる、もしくは家督相続することで、はじめて生母として厚遇を受けることができた。「側室」と一口にいっても、実質的な妻として認められる者と単なる侍妾との区別が江戸時代にはあったといわれるが、本状はその違いを具体的に示しているといえよう。





下総・和泉（泉光院）・梅津・輔君・安己君・民部・和泉（宝泉院）

## 第四章 揺 四代吉通から七代宗春 までの女性たち

大名家の結婚は、次第に家格の高さが重視されるようになり、尾張家でも四代吉通（一六八九〜一七一三）の正室輔君が九条家、また六代継友（一六九二〜一七三〇）の正室安己君が近衛家と、公家の名門から迎えられた。しかし、当主が相次いで死去し、七代宗春（一六九六〜一七六四）も幕府により隠居させられたため、四十年の間に四人の当主が代替わりした不安定な時代であった。五代五郎太（一七一〜一三）以外は兄弟間での相続であり、代替わりに伴い、吉通の生母下総だけでなく、継友の生母和泉、宗春の生母梅津も生母としての厚遇を受けることになった。

## 邦姫・恭君・好君・維君・從姫

## 第五章 安 八代宗勝と九代宗睦 ゆかりの女性たち

宗勝（一七〇五〜六一）は、川田久保松平家時代に四代吉通の長女三姫と結婚したが、早くに死別し、尾張家家督後も正室を迎えることはなかった。生涯に十五男十女に恵まれ、五人の男子を養子に出し、六人の女子を他家へ嫁がせた。宗睦（一七三二〜九九）は、近衛家出身の好君を正室に迎えた。好君亡き後は、養子治行の正室で紀伊徳川家出身の從姫が奥向きを取り仕切った。宗勝の藩政改革を受け継ぎ、長きにわたって安定した政治を行い、中興の名君と仰がれる一方、晩年は世継ぎに相次いで先立たれ、初代義直以来の血統が宗睦の代で途絶えた。

## 第六章 権 十代斉朝から十三代慶臧 までの女性たち



萌黄縮緬地雪持ち桐に文字文小袖 釧姫（釣姫）着用  
名古屋博物館蔵

白雪が降りしきるなか、1本の桐の木がのびやかに枝を広げる。「君か代は千代にやちよにさゝれいしの巖となりて苔のむすまで」の和歌1首が刺繍で縫い取られている。（10/19~11/7公開）

尾張家では十代から十三代まで将軍家一門からの養子が四代続いた。十代斉朝（一七九三〜一八五〇）は一橋治国、十一代斉温（一八一九〜三九）と十二代斉荘（一八一〇〜四五）は十一代将軍家斉、十三代慶臧（一八三六〜四九）は田安斉匡の子息であった。このうち慶臧は正室を迎える前に早世したが、十代から十二代までの正室は、近衛家から迎えた十一代の継室福君を除いて、将軍家斉もしくは田安斉匡の娘であり、奥向きも将軍家一門で占められていた。将軍家とのつながりが深まる反面、財政負担も大きく、幕府からの押し付け養子は、家臣の不満を招き、家中を二分する動きを生んだ。

### 菊折枝蒔絵三棚飾り 福君所用

公家の鷹司家に生まれ近衛家の養女となった福君は16歳の時に11代斉温の継室として尾張家へ嫁いだ。菊折枝蒔絵調度は現存する大名婚礼調度の中でも最大規模を誇り、金粉を撒いた梨子地に可憐な菊の折枝を主文様として、尾張家と近衛家の家紋を散らしている。

この調度は最新の研究により、尾張家の格式を保つために尾張家が用意した「待請道具」であり、福君に限らず数代にわたって同家の正室や娘の婚礼調度として使用されとみられる。

右上：桜縁巴紋唐草蒔絵長刀拵 和泉所用

左上：蔓木瓜剣葵紋唐草蒔絵長刀拵 梅津所用

梨子地塗の豪華な長刀拵で、桜縁巴紋は6代継友の生母の和泉（泉光院）、蔓木瓜剣葵紋は7代生母の梅津の専用の紋で、それぞれの所持品であることを示す。

長刀は古くから日本の主要な武器であったが、江戸時代には主に女子の護身のために用いられ、武家の女性に必須の武芸とされた。嫁入り道具としても持参され、道中を行く際には行列の格式を示す飾り道具ともなった。



※屏風および敷物は、福君の所用品ではなく演出として取り合わせた。

### 福君江戸下向行列図

京都より江戸に向かう福君の婚礼行列を描く。総勢712人が描かれた行列のうち、福君の乗物には、緋傘が差し掛けられている。



かみひめ  
矩姫・たけ・由起・多満・政姫

## 第七章 激

よしかつ  
十四代慶勝から十六代義宜  
までの女性たち

分家の高須松平家から尾張本家を継ぎ、藩政改革を行った十四代慶勝（一八二四〜八三）は、わずか十年で井伊直弼と対立し隠居謹慎となった。十五代を継いだのは実弟の茂徳（一八三二〜八四）だったが、慶勝が政治に復帰すると隠居し、慶勝の三男義宜（二八五八〜七五）に十六代当主の座を譲り、後に一橋家を継いだ。

慶勝と茂徳の兄弟は、いずれも高須松平家時代に二本松丹羽家から正室を迎えており、慶勝の正室矩姫と茂徳の正室政姫は、実の姉妹であった。二人の姉妹は夫に伴い、家移ったが、ともに長寿を保ち、幕末から明治という激動の時代を見届けた。



なかいろちりめんじこしよどきもんこそで  
中色縮緬地御所解文小袖  
矩姫着用

縮緬の小袖は、正装の綾子地に対して準正装とされる。本品は『源氏物語』の情景をあらわしており、風景の中に古典文学や謡曲を暗示させるモチーフをあらわした模様は御所解文と呼ばれ、武家女性の小袖に典型的な意匠である。（9/18〜10/17 公開）



千代田之大奥「お櫛あげ」  
楊洲周延画

江戸城大奥の年中行事や生活の様子を回顧的に描いたシリーズの一図で、姫君の髪を結う様子を描く。

## 展覧会関連イベント

### ◆記念講演会 初代義直正室 春姫婚礼をめぐって

講師： 東京学芸大学 名誉教授 大石 学 氏  
日時： 2021年10月2日（土）  
午後1時30分～3時（開場：午後1時）  
会場： 徳川美術館 講堂  
定員： 先着60名（先着順）※120名応募あり、締切済  
参加費： 無料（入館料は別途必要）

### ◆土曜講座 尾張徳川家の女性たち－正室・側室・息女－

講師： 当館学芸部部長代理 吉川 美穂  
日時： 2021年9月25日（土）  
午後1時30分～3時（開場：午後1時）  
会場： 徳川美術館 講堂

## 視聴者・読者プレゼント提供

秋季特別展「尾張姫君ものがたり」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



## お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017  
TEL：052-935-6262（10時～17時受付）  
052-935-8222（営業時間外受付）  
FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp  
竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp





秋季特別展 尾張姫君ものがたり

広報画像申請書 使用期間：～2021年11月7日



NO1.  
国宝 初音蒔絵鏡台  
千代姫所用  
江戸時代 寛永16年(1639)  
徳川美術館蔵



No. 2  
中色縮緬地御所解文小袖  
矩姫着用  
江戸時代 19世紀  
徳川美術館蔵



NO3.  
菊折枝蒔絵三棚飾り  
福君所用  
江戸時代 18～19世紀  
徳川美術館蔵



No. 4  
福君江戸下向行列図  
江戸時代 19世紀  
徳川美術館蔵



No.5  
千代田之大奥「お櫛あげ」  
楊州周延画 一帖の内  
明治29年(1896)  
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ ご利用にあたっての注意事項 ]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp